

石仏三十三ヶ所の由来

江戸時代の中世すぎ、寛政年間（1789～1800）に建立され、一説には新西国三十三ヶ所霊場の各札所として明治から大正の頃まで参詣者の香が絶えなかったという。

しかし今日でいう四国や篠栗の八十八ヶ所霊場、札所の石仏とは全く別の石仏菩薩で、石仏の作者は現在の福岡市下呉服町にある国松石材の第3代目国松市三郎さんが、寛政十二年（1800）に刻み建立されたものと伝えられている。

四王寺三十三ヶ所石仏については夫々の筋からの説があるが、いわば地元民や近郷の人々が千人詣りと称して列をなしたと伝えられ、篠栗の札所に並ぶ仏像群とは全く異なったもので霊地（場）の系統からみても違ったものという説である。三十三石仏異聞説のいま一つは、寛政年間から更にさかのぼった天正年間の岩屋城戦記に関係する。現在の鮎返り滝の石仏は、第20番札所で菩薩は三宝荒神を祀る。ここの信者は八女、久留米地方の人々が今も団体で詣でる。その人々の口伝によると、岩屋城攻防戦で落命した数千余百の将兵の霊魂を祀るために、石仏三十三体が建立されたのだと説明する。

四王寺三十三石仏の建立由来について確たる記録はない。ただ、天正十四年七月二十七日岩屋の孤城に散華した高橋紹運以下七百三十六名と、約三千名ともいわれる島津麾下将兵の霊を鎮める仏尊とする説はともかく、何かしら石仏と、古戦場の二つの歴史が偲ばれて感慨深いものがある。

◆石仏三十三ヶ所の手引

札所区分	所在地	菩薩名	備考
1番札所	太宰府市水瓶山	如意輪観音菩薩	
2番札所	〃	十一面観音菩薩	
3番札所	〃	千手観音菩薩	
4番札所	〃	千手観音菩薩	
5番札所	宇美町四王寺	千手観音菩薩	
6番札所	〃 (焼米ヶ原)	三宝荒神	
7番札所	〃 (〃)	如意輪観音菩薩	
8番札所	〃	十一面観音菩薩	
9番札所	〃	馬頭観音菩薩	推定
10番札所	〃	千手観音菩薩	
11番札所	〃	聖観音菩薩	推定
12番札所	〃	千手観音菩薩	
13番札所	〃	如意輪観音菩薩	
14番札所	〃	如意輪観音菩薩	
15番札所	〃 (持国天跡)	十一面観音菩薩	
16番札所	〃	千手観音菩薩	
17番札所	〃	十一面観音菩薩	
18番札所	〃	如意輪観音菩薩	
19番札所	〃	千手観音菩薩	
20番札所	〃 (鮎返り滝)	三宝荒神	
	〃 (〃)	千手観音菩薩	
21番札所	〃 (屏風岩)	十一面観音菩薩	推定
22番札所	〃 (百間石垣)	千手観音菩薩	
23番札所	〃	千手観音菩薩	
24番札所	〃 (八波礎石)	千手観音菩薩	
25番札所	〃 (毘沙門天)	千手観音菩薩	推定
26番札所	〃	千手観音菩薩	
27番札所	〃 (広目天跡)	如意輪観音菩薩	
28番札所	〃	聖観音菩薩	推定
29番札所	〃	馬頭観音菩薩	
30番札所	〃	千手観音菩薩	
31番札所	〃	聖観音菩薩	
32番札所	〃 (増長天礎石)	千手観音菩薩	
33番札所	〃 (四王寺集落内)	十一面観音菩薩	

(平成24年10月現在 石仏の名称は、調査研究等により変更される場合があります)

遊歩道コース及び時間表

区分	説明	距離	時間
一般コース	1 センター — 子供の国 — 増長天 — 焼米ヶ原 — センター	1.5K	40分
	2 センター — 八ツ波礎石 — 毘沙門天 — 土塁 — 増長天 — 焼米ヶ原 — センター (大城山)	4K	1.5時間
	3 センター — 焼米ヶ原 — 遠見所 — 村上礎石 — 四王寺集落 — センター	3K	1時間
特別コース	A 土塁・石仏巡り (センターを起点)	6K	3.5時間
	B 特別史跡(礎石石垣門礎)巡り (〃)	4K	2時間
	C 樹芸の森散策 (大野城乙金駐車場を起点)	2K	1時間

(注) 大野城史跡のため火気の使用は出来ません。